

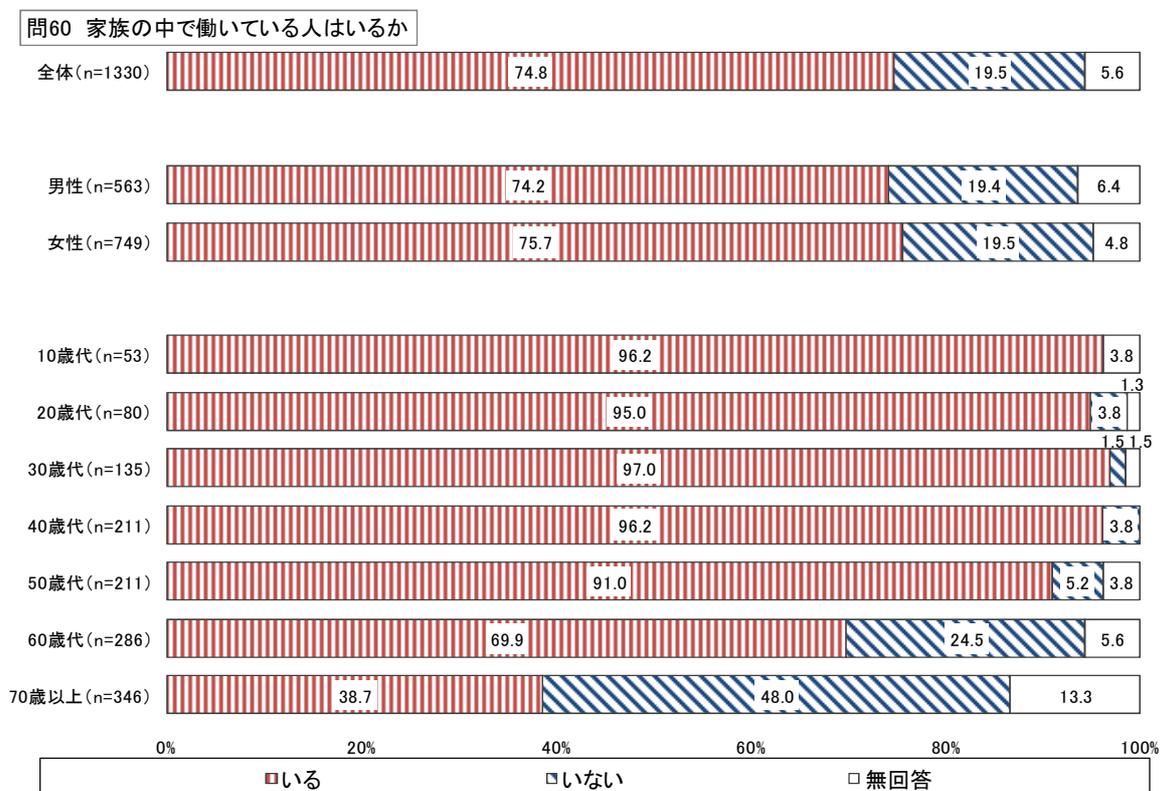
働き方改革について

問 60 ご家族（あなたを含みます。）の中で、働いている方はいらっしゃいますか。（複数人いらっしゃる場合は、主に生計を維持している方についてご回答ください。）
（○は1つだけ）

「いる」が74.8%と最も高く、ついで「いない」が19.5%となっている。

性別にみると、男性・女性ともに「いる」が7割半ば程度となっており、性別による違いはみられない。

年代別にみると、10歳代から50歳代までは、「いる」がいずれの年代でも9割を超えているが、60歳代からは「いない」が増加しており、70歳以上ではおよそ半数が「いない」としている。

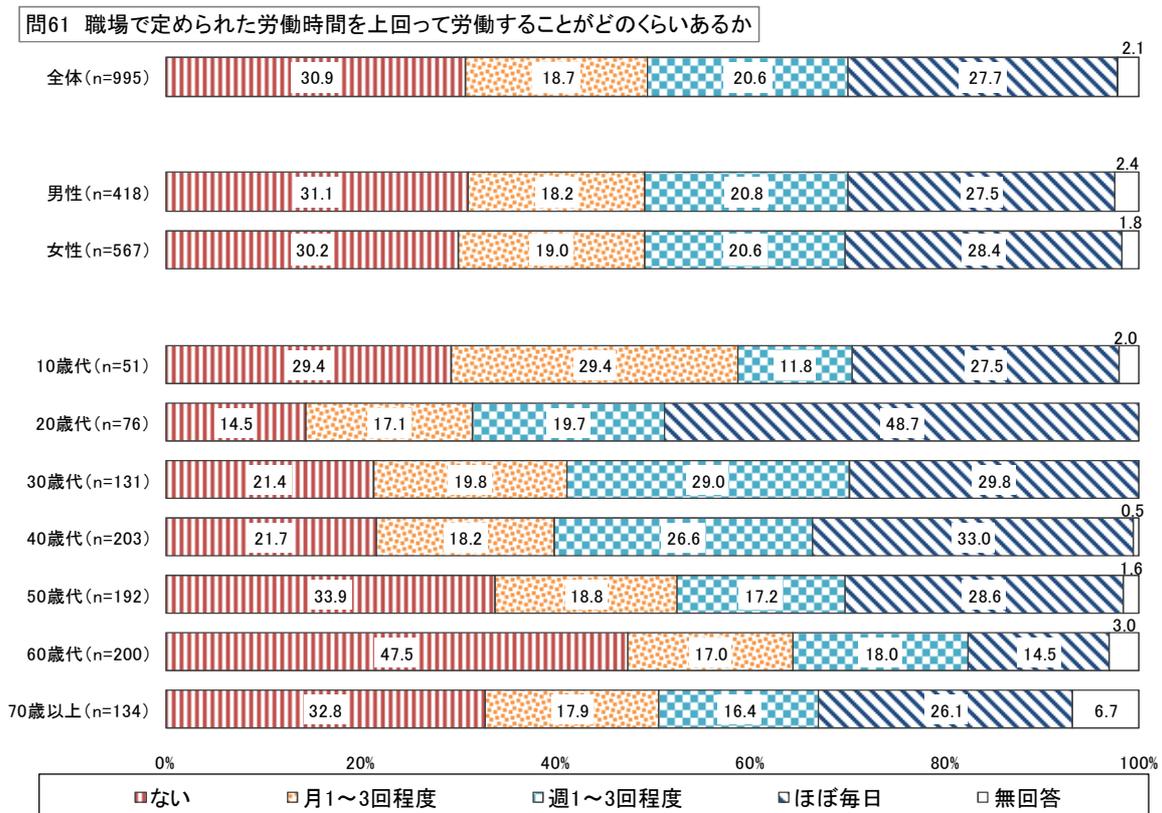


問 61 職場で定められた1日の労働時間を上回って労働することがどのくらいありますか。(〇は1つだけ)

「ない」が30.9%と最も高く、ついで「ほぼ毎日」が27.7%、「週1~3回程度」が20.6%となっている。

性別にみると、男性・女性ともに「ない」が最も高く、その他についても概ね同様の傾向を示しており、性別による違いはみられない。

年代別にみると、20歳代ではおよそ半数が「ほぼ毎日」となっている。一方で60歳代では「ない」が47.5%と最も高くなっている。

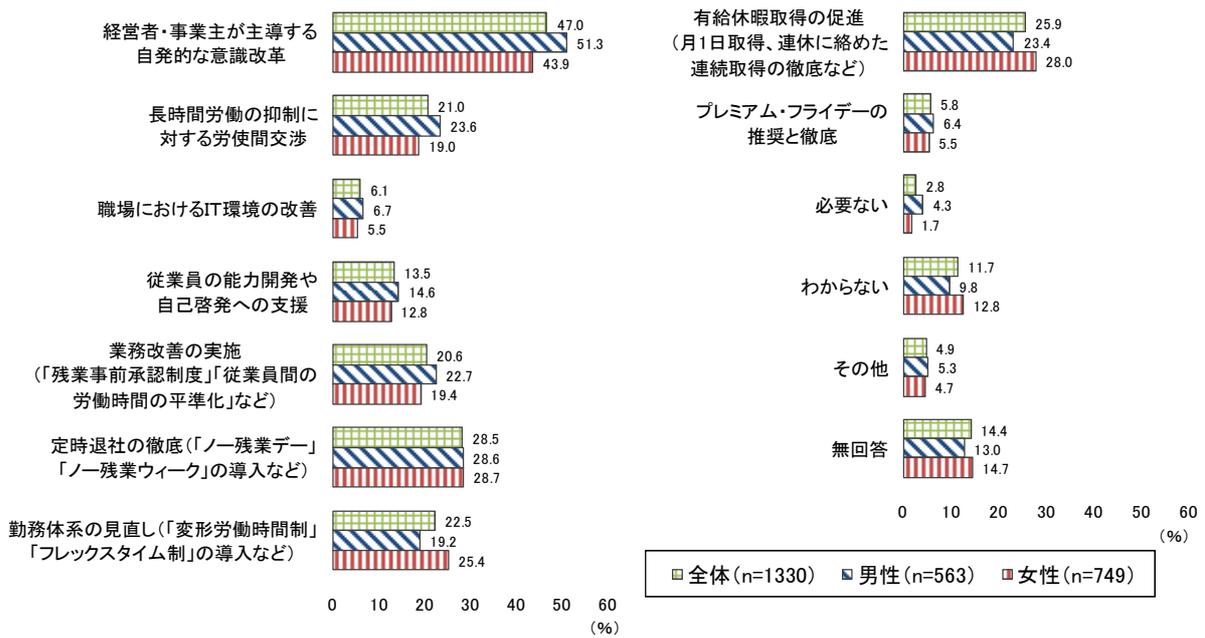


問 62 時間外労働の削減のためにどのような取組が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

「経営者・事業主が主導する自発的な意識改革」が47.0%と最も高く、ついで「定時退社の徹底(「ノー残業デー」「ノー残業ウィーク」の導入など)」が28.5%、「有給休暇取得の促進(月1日取得、連休に絡めた連続取得の徹底など)」が25.9%となっている。

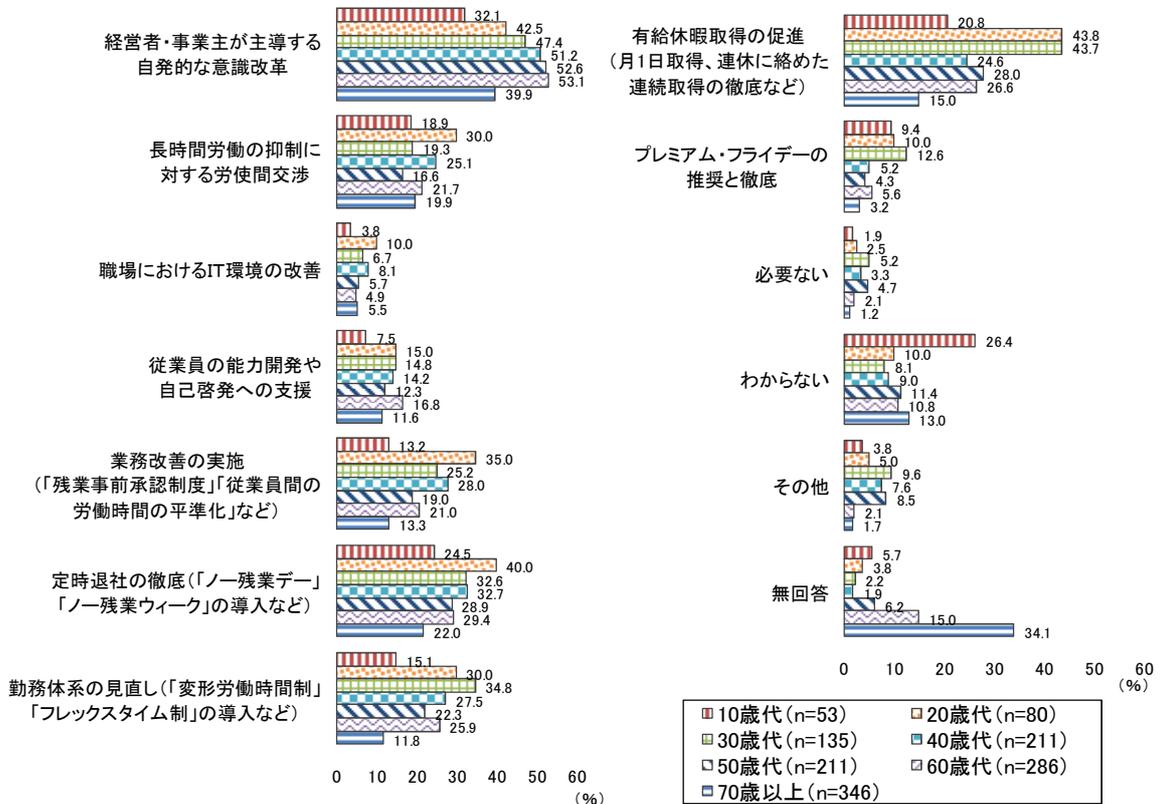
性別にみると、男性・女性ともに「経営者・事業主が主導する自発的な意識改革」が高くなっているが、男性では女性よりもおよそ8ポイント高く、51.3%となっている。

問62 時間外労働の削減のために必要だと思う取組



年代別にみると、20歳代、30歳代で「有給休暇取得の促進（月1日取得、連休に絡めた連続取得の徹底など）」が他の年代よりも15～20ポイント程度高く、4割半ばとなっている。

問62 時間外労働の削減のために必要だと思う取組



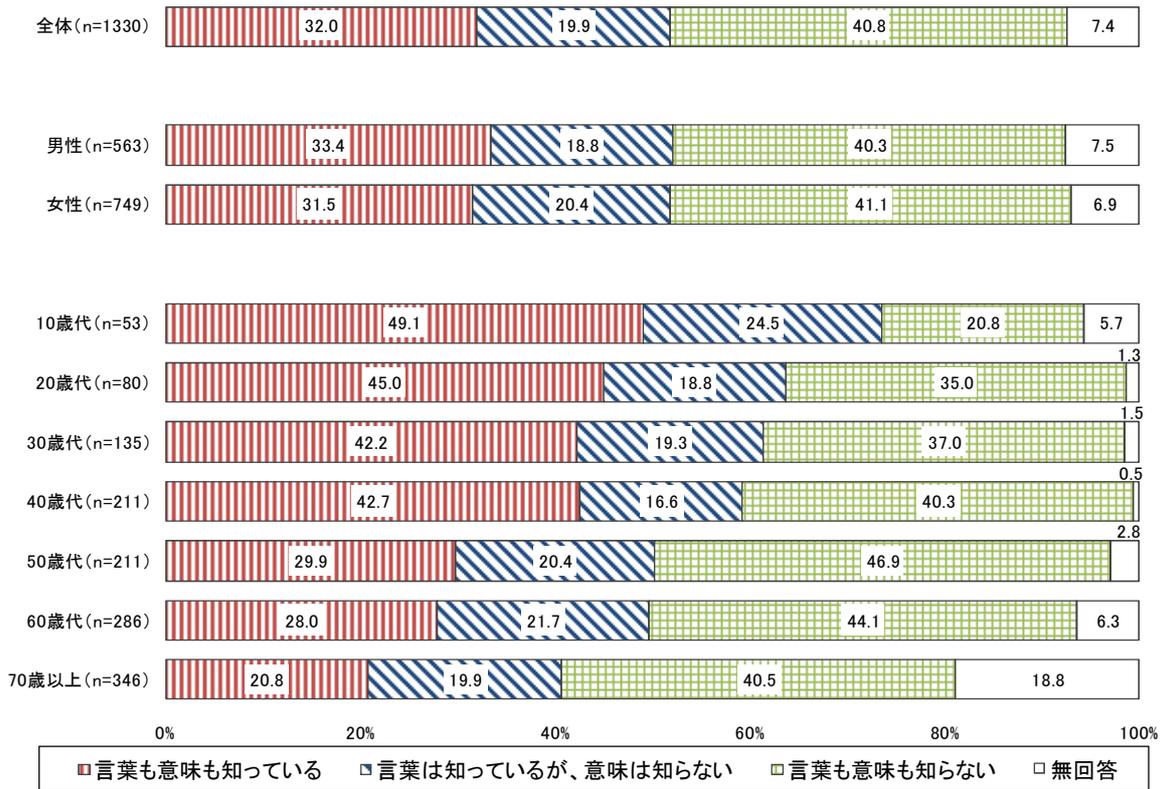
問 63 「ワーク・ライフ・バランス」について知っていますか。（〇は1つだけ）

「言葉も意味も知らない」が40.8%と最も高く、ついで「言葉も意味も知っている」が32.0%、「言葉は知っているが、意味は知らない」が19.9%となっている。

性別にみると、男性・女性ともに「言葉も意味も知らない」がおよそ4割となっている。男性は「言葉も意味も知っている」が33.4%で女性よりも僅かに高くなっている。

年代別にみると、10歳代で「言葉も意味も知っている」が49.1%と約半数であるが、その後減少していき、70歳以上では20.8%となっている。

問63 「ワーク・ライフ・バランス」について知っているか



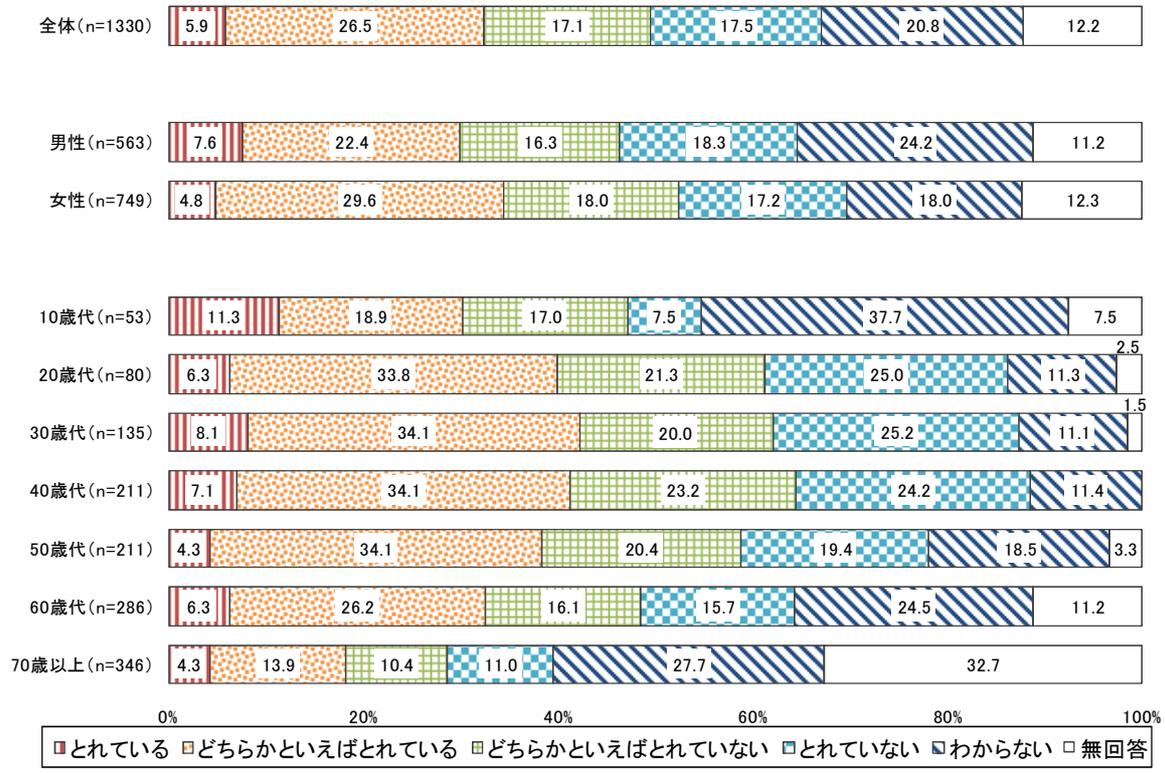
問 64 満足した「ワーク・ライフ・バランス」がとれていると思いますか。(○は1つだけ)

「どちらかといえばとれている」が26.5%と最も高く、ついで「わからない」が20.8%、「とれていない」が17.5%となっている。

性別にみると、女性は「とれている」「どちらかといえばとれている」の合計の割合が男性よりもやや高くなっている。

年代別にみると、20歳代から40歳代では「とれている」「どちらかといえばとれている」の合計の割合が、他の年代と比べ高くなっており、4割を超えている。

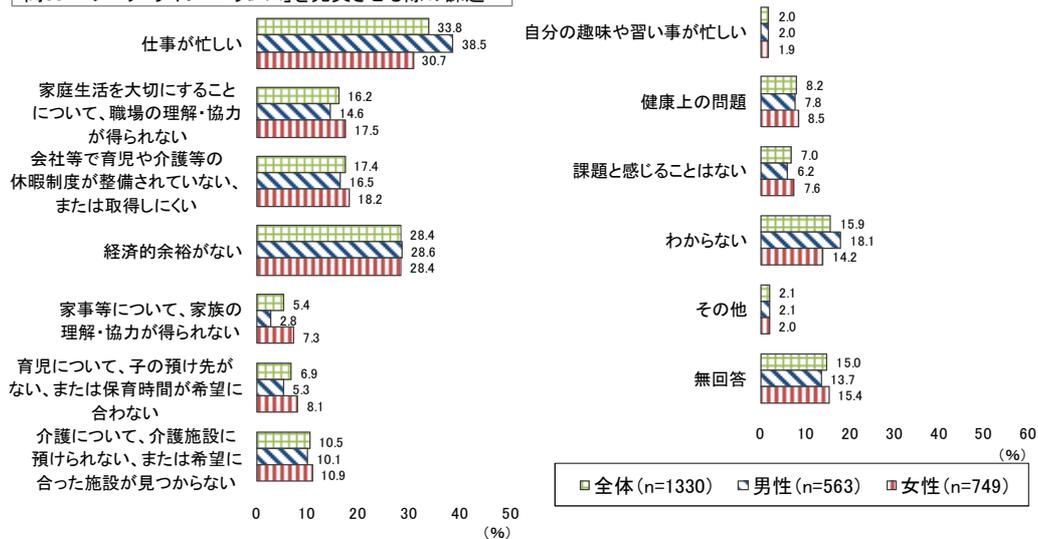
問64 「ワーク・ライフ・バランス」がとれているか



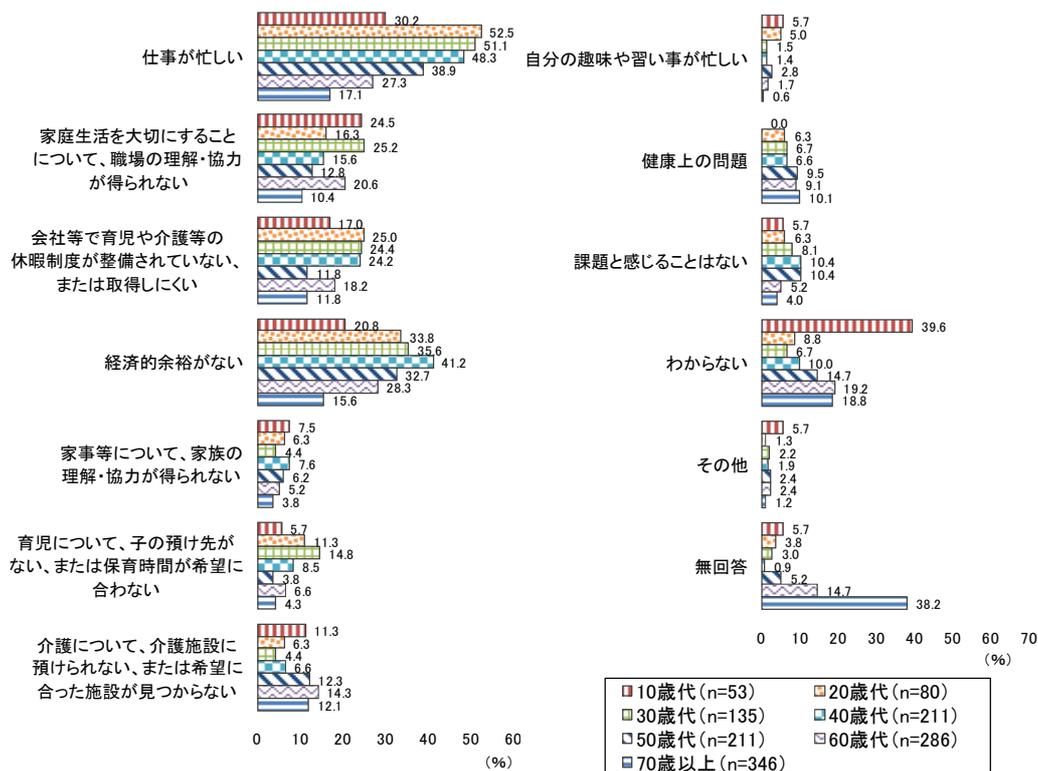
問 65 「ワーク・ライフ・バランス」を充実させようとする際に、課題と感ずることは何ですか。（〇はいくつでも）

「仕事が忙しい」が33.8%と最も高く、ついで「経済的余裕がない」が28.4%、「会社等で育児や介護等の休暇制度が整備されていない、または取得しにくい」が17.4%となっている。
性別にみると、男性では「仕事が忙しい」が女性よりも8ポイント程度高くなっている。
年代別にみると、20歳代から40歳代で「仕事が忙しい」がおおよそ5割で高くなっている。また、40歳代では「経済的余裕がない」が比較的高く、41.2%となっている。

問65 「ワーク・ライフ・バランス」を充実させる際の課題



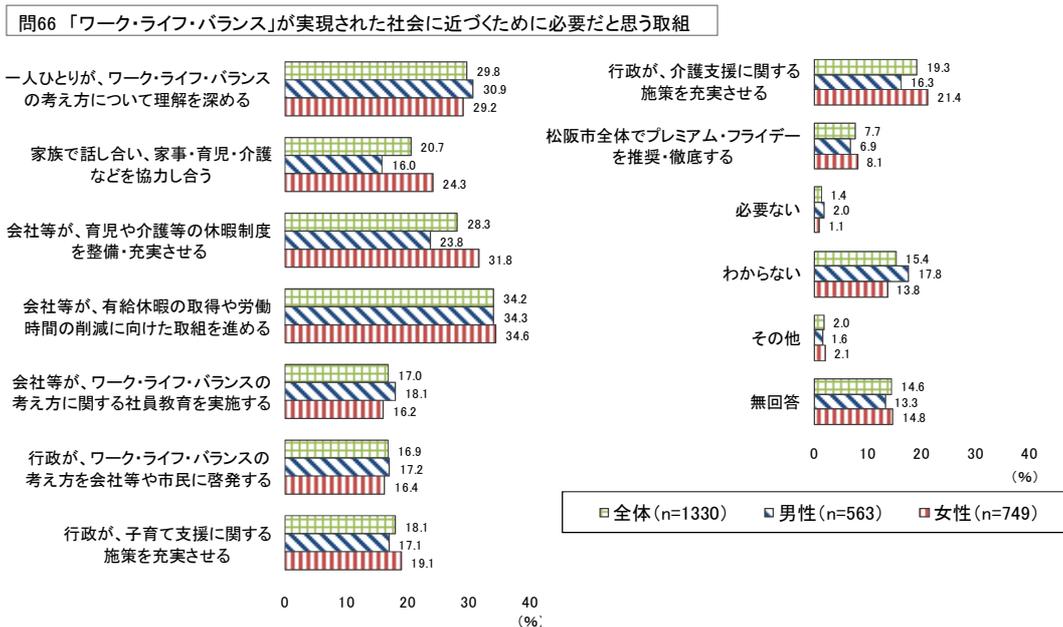
問65 「ワーク・ライフ・バランス」を充実させる際の課題



問 66 「ワーク・ライフ・バランス」が実現された社会に近づくために、どのような取組が必要だと思いますか。（〇はいくつでも）

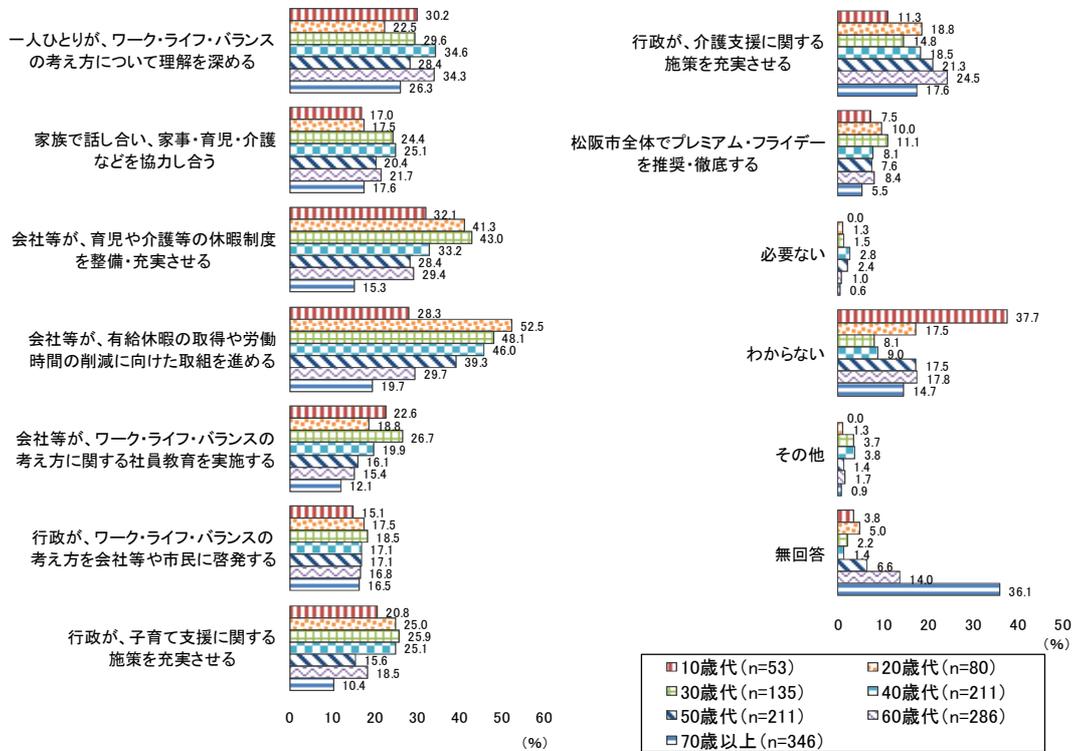
「会社等が、有給休暇の取得や労働時間の削減に向けた取組を進める」が 34.2%と最も高く、ついで「一人ひとりが、ワーク・ライフ・バランスの考え方について理解を深める」が 29.8%、「会社等が、育児や介護等の休暇制度を整備・充実させる」が 28.3%となっている。

性別にみると、「家族で話し合い、家事・育児・介護などを協力し合う」「会社等が、育児や介護等の休暇制度を整備・充実させる」で男性と女性の間と比較的大きな差がみられ、女性の方が男性よりも 8 ポイント程度高くなっている。



年代別にみると、20歳代から40歳代では「会社等が、有給休暇の取得や労働時間の削減に向けた取組を進める」が4割半ばから5割と高くなっている。また、20歳代、30歳代では「会社等が、育児や介護等の休暇制度を整備・充実させる」が他の年代よりも高く、いずれも4割を超えている。

問66 「ワーク・ライフ・バランス」が実現された社会に近づくために必要だと思う取組



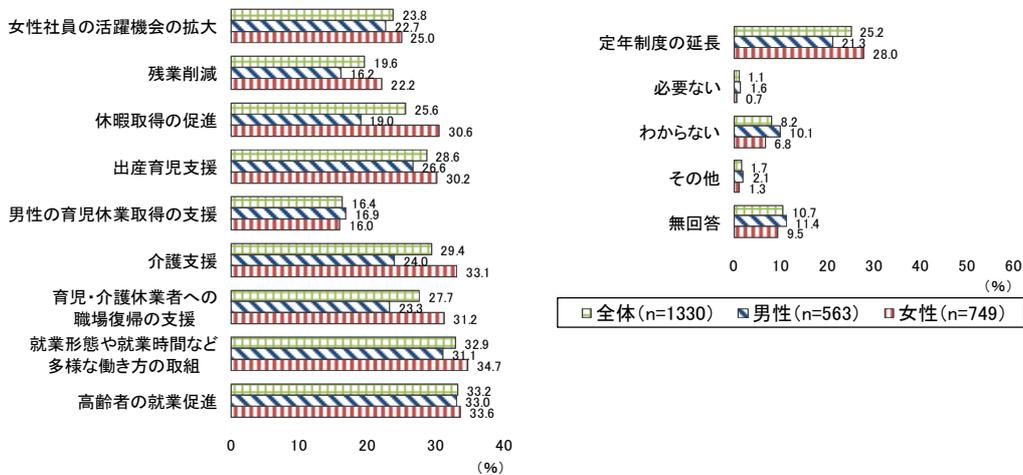
問67 女性や高齢者が長く働ける労働環境づくりのためにどのような取組が必要だと思いますか。（〇はいくつでも）

「高齢者の就業促進」が33.2%と最も高く、ついで「就業形態や就業時間など多様な働き方の取組」が32.9%、「介護支援」が29.4%となっている。

性別にみると、「休暇取得の促進」「介護支援」「育児・介護休業者への職場復帰の支援」で性別による違いがみられ、女性の方が男性よりも10ポイント前後高くなっている。

年代別にみると、10歳代から30歳代の若い世代では「出産育児支援」が高くなっており、いずれの年代でも4割を超えている。一方で50歳代、60歳代では「高齢者の就業促進」が高くなっており、いずれの年代でも4割を超えている。

問67 女性や高齢者が長く働ける労働環境づくりのために必要だと思う取組



問67 女性や高齢者が長く働ける労働環境づくりのために必要だと思う取組

